Technology

ハザードマップを作った後は？

これからはじめる浸水対策

「内水ハザードマップを作ったものの、その後の進め方がわからない」「限られた財源の中、思うように浸水対策が進まない」そんな悩みを抱える貴自治体（あなた）に、業界最大級の実績やノウハウを有する日水コンが最適な雨水管理総合計画を提案します！ 日水コンと一緒に効率的な浸水対策をはじめませんか？

内水ハザードマップを作ったものの、その後の進め方がわからない！

自治体の声

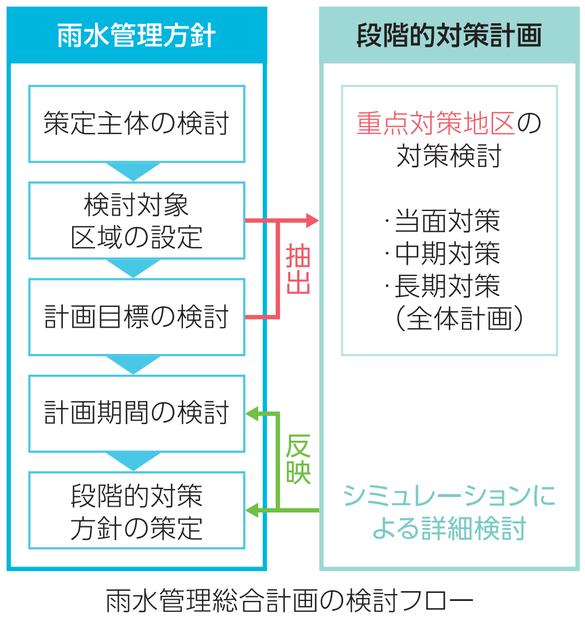
雨水管理総合計画を策定して対策を効率的に進めましょう！

日水コン

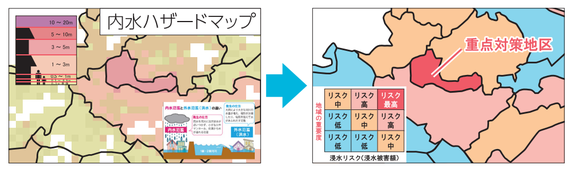
「雨水管理総合計画」でできること

雨水管理総合計画を策定することで、以下のことが実現できます。

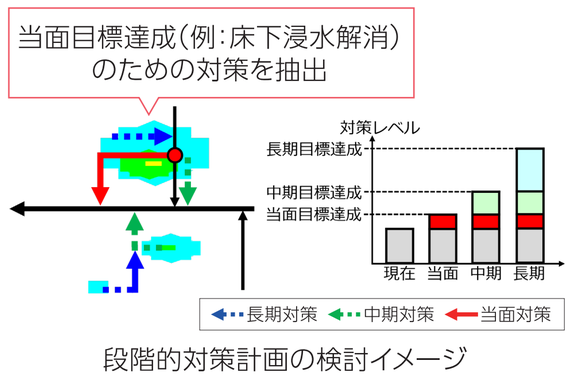
1. 内水ハザードマップを活用し、リスクマトリクスによる対策優先度の評価を行うことで重点対策地区を抽出
2. 段階的な浸水制御目標を設定し、目標に応じた段階的対策計画を検討
3. ①と②により空間的かつ時間的に優先度が高い対策を抽出することで、効果的かつ効率的な当面対策を位置づけ



雨水管理総合計画の検討フロー



重点対策地区の抽出イメージ



段階的対策計画の検討イメージ

放流先の影響が大きく、下水（内水）の対策だけでは浸水対策の効果が薄い！

自治体の声

内外水一体の対策（流域治水）により、効果的かつ効率的な対策を進めましょう！

日水コン

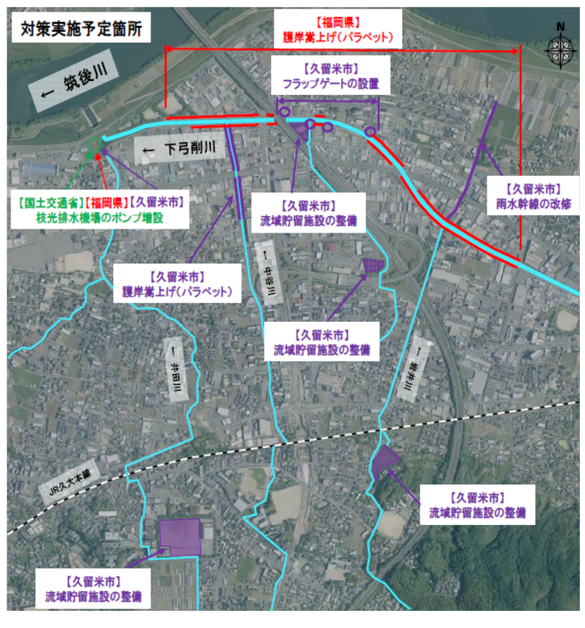
内外水一体の対策（流域治水）のご提案

地球温暖化の影響により、降雨の規模や頻度が増加する傾向にあり、近年では毎年のように全国各地で甚大な外水・内水の浸水被害が発生しています。このような状況を受けて、国土交通省は2021年7月及び11月に特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律（通称「流域治水関連法」）を施行し、流域全体の対策にあらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」を推進しています。

限られた予算の中で、迅速かつ段階的な浸水対策を進めるためには、外水（河川や潮位）と内水を一体として扱った上で、流域全体での総合的な対策を検討することが有効かつ不可欠です。日水コンでは、国内のマーケットリーダーである下水道事業部と、全国で数々の業務表彰実績を有する河川事業部が協働し「流域治水チーム」を結成しました。これまで以上に、内外水一体の対策（流域治水）の取組みを加速させていきます。

流域治水

▲流域治水オフィシャルサポーターに認定されました



国・県・市が連携した浸水対策案の概略図
（出典：福岡県ホームページ　総合内水対策計画より）

内外水一体検討の必要性

- 多岐にわたる事業主体間で円滑な合意形成を図るためには、河川と下水道を一体的に扱い、各事業体が個別に対策する場合に対して、総合的に行う場合のメリットを定量的に示すことが有効かつ不可欠です。
- 本事例では河川と下水道が一体的に評価できる精度の高い浸水シミュレーションにより対策を検討し、個別に対策を行う場合と比較して、対策費用が大幅に抑制できることを示しました。

雨水のお悩み
解決します